母の思いに日々、感謝！

春先、畑の草取りをしていたら、草むらの中に埋まっているつる状の植物がふと目に入った。干からびて瀕死の状態だ。手遅れかもしれない。直ちに周りの草を取って、水をたっぷりやった。ブドウに思えたが、自信がない。そこで、植物に造詣が深い知人に見てもらったら、案の定ブドウだった。

しばらくの間、朝晩水やりを続けた。「あっ、小さな芽だ！」手当ての甲斐あって助かった。早速、通販でブドウ棚を購入して設置した。えんま市の頃になると、葉が棚全体をおおい尽くし、小さなブドウの房が見えた。

誰がこのブドウを植えたのか、ずっと気になっていた。つい最近近所の方の話によれば、亡き母が植えたとのことだ。「わが子にひもじい思いをさせたくないので、果実のなる木を植えている」と、生前話していたとのことだ。そう言えば、我が家にはブドウの他にプラム・桃・リンゴ・柿・アンズ・サクランボ・イチジクなどの木々がある。私の目からウロコが落ちる。戦後すぐに生まれた私たち三人兄妹を育てるための苦労がしのばれる。

先日、あの春先のブドウを収穫したので、亡き母に供えた。そして、一粒一粒の甘さを味わいながら、母の思いに感謝している日々だ。